

2022 年度イラク・小児がん支援事業支援報告



■実施地域：イラク共和国クルド自治区

■支援対象者：小児がん患者、患者家族、貧困患者家族

概要

2022 年度は、イラク全体としては中央政府の新政権が発足し、近年では比較的治安も安定した年となった。一方で、南部ではシーア派同士の武装勢力による衝突、北部のクルド自治区ではイランからのドローンやミサイル攻撃、トルコからの越境攻撃など散発的に発生した。世界的な物価高の影響はイラクにも波及しており、物価高が進み、人々の生活は厳しさを増している。また人口約 4,118 万人のうち約 5% が食糧危機の状態にあるというデータもある。このような社会情勢から、貧困患者は増加し、貧困患者支援が全く追いついていない状況である。JIM-NET ハウスでは、院内学級の活動内容も充実し、2022 年度は患者家族や患者に関わるスタッフを対象としたピアサポートの研修も実施した。

1. 病院への医療支援及び医薬品提供

病院側からの要請に基づき、抗がん剤やがん治療に必要な医薬品支援を実施した。病院への医薬品の配給量及び配給ペースは時期にもよるが、保健省へのリクエストから実際の病院への納入まで 3 ヶ月から半年ほどの時差があることが分かっている。そんな中で、JIM-NET は治療に必要な医薬品を迅速に支援することが出来ており、医師や病院薬剤部からは感謝の言葉が述べられている。

支援額は年間 21,996USD (約 297 万円) となった。※1USD=135 円換算

2. 貧困患者支援

病院に在庫していない医薬品を外部で購入するための購入支援及び病院に通院するための交通費支援に加え、PET 検査やその他実費での検査費用の一部を支援した。前年度から再度増額して対応していたが、月々の予算は一週間以内で底をついてしまい、翌月やそれ以降まで待ってもらう状況がほとんどである。22 年度はローカル患者と国内避難民及び難民の患者、それぞれ月額 2,000USD の予算で対応した。また、貧困患者支援を行うにあたって家庭訪問が特に必要と判断した場合は家庭訪問を実施しており、22 年度は 30 回程度家庭訪問を実施した。訪問した家庭の一ヶ月の収入は平均で約 43,000 円という調査結果が得られ、イラク人の平均所得額よりもはるかに低い所得であることが分かった。改めてがん治療に係る費用が患者家族の生活を逼迫させているかが浮き彫りとなり、2023 年度は更なる予算の増額で対応する予定である。

3. JIM-NET ハウスにおける心理社会的な支援

6 部屋ある患者家族のための宿泊施設では、年間一日平均利用者は 14,9 人、年間の利用者延べ人数は 5,454 人となった。宿泊サービスは経済的、身体的、精神的な支えとなり、開所以来ニーズが高いサービスとなっている。院内学級では、毎日 10 人前後の子どもたちが通い、22 年度は新しく小児科の病棟が完成し、待合室でも子どもたちへのケアやアクティビティを実施している。また、ピアサポートの活動内容の充実のため日本から専門家を招聘し、患者を持つ家族同士の繋がりやその機会を提供するスタッフへの研修を行った。今後も専門家と共に更なる心理社会的な支援の充実を目指している。